

# 私

その姿を追うカメラマン、番勝負の舞台の女将、地元

女将は見た!

雨情の宿

## 新つた

(竜王戦第3局対局場)

「見透かされた

いわきの初心」

雨宮吉吾 = 文

Text by Keigo Aheniya/Number

末永裕樹 = 写真

photograph by Yuki Suenaga



第1局はハロウィンモンスタアの形をした紫芋モンブラン、第2局ではくまさん最中。それまで選んできたカワイイ系の映えるおやつとは異なり、郷土芸能の名を冠した和菓子はいかにもな佇まいで、少なくとも世間一般の19歳が好むルックスではない。映えない。

「お菓子までは行き届きませんので、温泉旅館で普段お出ししているものならばということでした。でも藤井さんはそれを選んでくれた。気を遣って地元の「愛」を選んでくれたのかなと思います。いわき銘菓と名がついてますからね」

藤井は2日目も温泉まんじゅうと味噌まんじゅうの手堅い攻めを見せた。

感染対策のため宿の従業員でも気軽に棋士と触れ合うことはできず、客室回りで世話をしたのは接客係の米村「哉たけだ」だった。最初にスーツ姿の藤井を見た時、米村は「思ったよりも小柄だな」と感じたという。

ところが、和服に着替えた途端に雰囲気が変わった。「お部屋に行ったら、一人で着替えてビシツ」と言われていた。がっちりして見えて、風格を感じました」

対局が始まって昼食休憩になるとまた驚いた。

「たまたま対局室からお部屋に戻る瞬間の顔を見たんですが、げっそりして疲れ切っている。えっ!?」と思いました。朝とは全

然違って、すごく痩せたなと。初日も2日目もどちらもそうでしたね」

将棋のことはよく知らなかったが、その姿を見ただけでどれだけのエネルギーを費やしているのか窺い知ることができた。

ちなみに米村にはおやつを対局室に運ぶ重大な任務も与えられた。

「10時と15時。時間きっかりに持っていきますが、もう手が震えましたよ。落としてたりしたらどうしようって(笑)」

対局が無事に終わった翌朝、女将は藤井からサイン色紙を受け取った。

書かれていたのは「初心」の二文字。

見透かされたような気がして、女将は「ドキッ」と大げさに声を上げた。

震災の傷が癒えてきた頃に、今度はコロナ禍に見舞われた。いわき市からの要請を受けて初めての会場となることが決まった竜王戦。湯本の温泉街が活気づくようにと準備を進める中で、従業員たちが一致団結する空気を感じ、この対局と時期を同じくして福島県内版GOTOトラベルとも言える「県民割プラス」も始まった。

「いわきの温泉も初心を忘れず頑張らないといけませんね」

そう伝えると藤井は大きく笑った。

竜王戦の狂騒も冷めやらぬ中、新つた周辺では早くも再びタイトル戦を招こうという機運が高まっているという。



対局翌日の記念撮影で満面の笑みを浮かべる藤井。隣に立つのが女将の若松。この色紙は額装してロビーに飾られている

昨年10月、竜王戦第3局の舞台となった福島県・いわき湯本温泉の老舗旅館「新つた」。その女将、若松佐代子が最初に驚いたのは藤井聡太のおやつ「チョコイス」だった。棋士は会場入りの際におやつを含めた2日間の希望メニューを提出する。料理に関しては板前が地元の食材からとりどりのメニューをこしらえていたが、スイーツは地域のお店から集めても限界がある。

「でも、まさか『じゃんがら』を選ぶとは思いませんでした」

藤井が提出した用紙には銘菓「じゃんがら」の横に丸印がつけられていた。